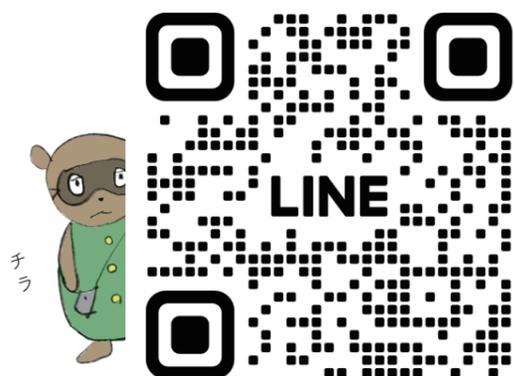


トリノストアのLINE公式アカウントを作りました。イベントのお知らせだったり、何かの募集だったり、この新聞に関する何やらをお伝えするような、とってゆるいものになります。

LINEで「トリノストア」と検索しても出てきます。

その他、読者の方からの「こんなことしたいんだけど、手伝って」といったご要望もお受けしていますので、お気軽にご連絡下さい。



トリノストアという、オンラインストアを9月くらいから本格的にスタートして、柴田町産のお米や蜂蜜、スパイスなどの商品を作って販売しています。昨今の米の価格の急騰もあって、引っぱり無しにお米の注文が来るようになり、それを一人で処理していかなきゃいけないので、早朝から一人でお米を取りに行ったり、精米したり、袋詰めして箱に入れて発送したり、つてのをやった結果、見事に腰を痛めたわけです。もうとっくに「ぎっくり腰」ってものを経験している方もいると思うんですが、本当にあの時って、あらゆる事が普通に出来なくなってしまって、その中で僕が一番辛いと思ったのが「思いっきりくしゃみが出来ない」ということでした。

これを読んで下さっている美しき女性の皆さんは、きっと子猫みたいに「クシュ クシュ」と小さいくしゃみを連続でやっていると思うんですが、僕のような男、いや、漢はですね、一瞬体が宙に浮くんじゃないか、ってくらいの豪快なくしゃみをして生きているわけです。「へっっっくしゅん！」の後に、わざわざ豪快さを見せつける為に「このおー」って言葉を入れてしまうくらい、正々堂々としたくしゃみをして生きています。でも、それがぎっくり腰になった途端、いつもの江戸っ子みたいなくしゃみが出来ず、(やばい、これくしゃみ出るぞ)と思ったら、ゆっくりと立ち上がって腰に手

を当て、くしゃみが出る前から、息を吐き出すのです。すると「はーっーホッ！」という、迷子の鳩みたいな声が出て、腰への負担は少なくなるんだけど、体と頭はどうしても(どうした？いつものあの豪快なくしゃみをしやがれ、ばっきゃろう、てやんでい)と言ってきて、すぐに連続してくしゃみが出るんです。なのでずっと僕は一人自宅で「はーっーホッ！」「はーっーホッ！」と、壊れかけの鳩時計のように鳴き続けていたのです。

そんな腰を痛めた翌日、柴田町の某所に出かけてカウンターでやりとりをしてから椅子で待ち、しばらくして名を呼ばれたので、江戸時代の茶運び人形みたいにそろそろと歩いてカウンターに向かいました。そして必要な書類を受け取ったときに「あ、いつも新聞読んでいます」と急に言われたわけです。時々、そういったことを言うことが増えたんですが、僕はその時、腰への負担を軽減することしか考えない、しがたない茶運び人形だった為に、ただただ動揺してしまい「へえ、へへへ、ど、どうもすみません」と急にへこへこしちゃって、足早に去ろうとしたら、その必要な書類を忘れて帰りそうになったので「あ、これ忘れてます」と言われて「えれ？えへへ」と言って誤魔化して、ただただ気持ちの悪いからくり人形が、柴田町で一人、変な汗をかいていましたよっていう話。

# 焼き菓子と民藝



販売する陶器は、こういった「スリップウェア」と呼ばれるお皿がメインとなります。恐らく、最初に見た方は「え？これの何が良いの？」と思う方がいるのかもしれませんが、一度この魅力にハマってしまうと、食器棚に続々とスリップウェアが増えていきます。食卓の中に一つで良いので、スリップウェアや、他の作家さんが作ったものに変えて頂けると、確かに食事の雰囲気も変わるなあ、あれ、もしかしたらなんかハマるかも、と思って頂けたら、嬉しいなあと思っています。

柴田町に引越してきてから、まず最初に考えたのは「どこかイベントが出来る場所は無いかな？」でした。便利である必要は無いし、交通の便が悪くても全然良いけど、一つだけ思ったのは「雰囲気がある所」でした。元々、北海道に居たときに、陶器と焼き菓子のお店をやっていたこともあって、出来れば東北でもそんな形の店をやりたいなと思っていました。そしたら割とすぐに富上分館の存在を知り、とにかくここからスタートしたいと考えるようになって、関係各所で手続きを進めました。ただ、全く知名度の無い僕が開催するイベントです。どれくらいの数の方が来て下さるのが全くの未知数、ということもあり、今回は僕が昔からお世話になっている、北海道の当別町にある焼き菓子屋さん、長崎県の若手陶芸家お二人と、宮城県で作陶されている方の作品を展示、販売をする小規模なイベントにさせて頂くことにしました。(※あ、ボランティアスタッフの方を随時募集中です)



焼き菓子、陶器、珈琲豆の他に、柴田町に来てから作った蜂蜜、オリジナルスパイス、お米の販売も致します。お支払いは現金のみになりますので予めご了承下さい。

## 場所や住所、時間と日程

- ・2024年11月16日(土)と17日(日)
- ・営業時間 11:00~16:00
- ・富上分館(プチ道の駅とみかみ)
- ・宮城県柴田郡柴田町富沢青木町6-2
- ・問い合わせ info@torinone.com



「葉坂希望の郷」さんという、槻木の葉坂にある農事組合法人の青柳さんって方を、柴田町役場の好青年でお馴染みのN村さんからご紹介頂いてから、お米の仕入れや販売のお手伝いなどをさせて頂いています。9月末にあった「しばた新米まつり」の時にも、告知や集客をさせて頂いて、想定以上の方に来て頂きました。最近、気が付けば仕事の関係者の人って結構年下の人が多くて、小太りお茶目な最年長みたいな扱いを受けていたんですが、葉坂に行くとは僕はいきなり最年少になり、こりゃ、おっちゃん達に無理させるわけにはいかんてしょと、ひたすら米を運びまくってました。そして前号でもさらっと書きましたが、来年から本格的に農家さんとの仕事をしていきたいと思っていて、僕としては営業とかイベントの集客、告知、新たな商品開発、そして販売や流通に関してをやらせてもらいたいなと思っています。葉坂だけでなく柴田町の農家の皆さんと色々作れたらと思っていますので、お気軽にお声掛け下さい。

## 同僚のおふたり



空き家対策の林くん 0224-54-2111 まちづくり政策課

空き家対策というミッションをこなしながら、除草や小さめの木を切ったりしているのがリンリンです。近々、リンリン、ゆず、タイガー、リッキーというメンバーで焼肉に行くんですが、恐らくそこはカオスです。



芸人のゆずさん

最近、いろんな取材とかテレビとか、ライブなどで忙しくしているゆずさんですが、今後も町内のイベントでお目にかかるんじゃないかと思えます。先日初めて彼女のネタを見たんだけど、ネタに入る前のあの緊張感って良いもんですね。

ゆずさんの SNS 達



## 今月の「急に見開きになった」

今回はイベントを主催するというので、このように見開きでの紙面作りをしてみました。なんだか無駄に文章多いけど、大丈夫でしょうか。あと、全然関係無いんだけど、先日、とある場所で初めてお会いする方との打ち合わせがあり、その時僕は髪を縛っていたんです。お相手の方は気さくな年配のおっちゃん、という情報は得ていたので初めましての挨拶をしたんですが、その時に相手の方が「どうもはじめまして。いやー、山田さん羨ましいわ、髪ふさふさで。俺なんかほら、もうツルツルだよ」と急に言って下さったわけです。そうになったら、これはもうそういう流れだろうと思って、柴田のお茶目おじさんでお馴染みの僕としては、咄嗟に「いやいや、〇〇さん、ボーボーじゃないすか」と半笑いでその方に伝えたら、それまで笑顔だったのに急に顔をぐっと近づけてきて「怒るよ」って静かに言われたのを思い出す度に、一人でブフー！と吹き出しています。



## - 編集後記 -

「地域おこし協力隊フェス」みたいなものが仙台であって、今回は僕とゆずさんの二人で参加させて頂きました。元々あまり人前に入るのが苦手なだけで、その短所をゆずさんが横からフォローしてくれて、僕はただただ微笑みながら「ありがとうございます」と言う、というそんなフェスになりました。

トリノネのInstagram → id: torinone.store

## トリノネ新聞の設置場所一覧(敬称略)

柴田町役場2階、しばたの未来(株)、仙台銀行船岡支店、アウトドアズマン、柴田町の4つの郵便局、ナルミキッチンラボ、ほっとファーム、仙台大学

発行者: 柴田町地域おこし協力隊 山田和史  
ご感想やご依頼などは ⇒ info@torinone.com へ  
オンラインストア ⇒ https://www.torinone.com